

## 1 数列の極限 の解答例

演習 1.1 (i)  $|1 - a_n| < 0.1 \Leftrightarrow \frac{1}{n+1} < 0.1 \Leftrightarrow 10 < n+1 \Leftrightarrow 9 < n$  だから, 例えば  $N = 10$  とすればよい. ( $N$  は 10 以上の自然数ならば何でも良い.)

(ii) 上と同様に考えれば,  $|1 - a_n| < 0.01 \Leftrightarrow 99 < n$  なので, 例えば  $N = 100$  とすればよい. ( $N$  は 100 以上の自然数ならば何でも良い.)

(iii) 任意に実数  $\varepsilon > 0$  をとったとき,  $|1 - a_n| < \varepsilon \Leftrightarrow \frac{1}{n+1} < \varepsilon \Leftrightarrow \frac{1}{\varepsilon} < n+1 \Leftrightarrow \frac{1}{\varepsilon} - 1 < n$  なので,  $\frac{1}{\varepsilon} \leq N$  となる自然数  $N$  をとれば,  $n \geq N \Rightarrow |1 - a_n| < \varepsilon$  を満たす.  $\forall \varepsilon > 0$  に対してそのような  $N$  がとれたので,  $\lim_{n \rightarrow \infty} a_n = 1$  が証明できた.

演習 1.2 まず, 次に注意:  $n = 1, 2, 3, \dots$  に対し,

$$a_n = \frac{n^2}{n+1} = \frac{(n+1)^2 - 2(n+1) + 1}{n+1} = (n+1) - 2 + \frac{1}{n+1} = n - 1 + \frac{1}{n+1} > n - 1.$$

(i)  $N = 101$  とすれば,  $n \geq N \Rightarrow a_n > n - 1 \geq N - 1 = 100 = M$  となる.

(ii) 任意に実数  $M > 0$  をとったとき,  $N \geq M + 1$  となる自然数  $N$  をとれば,  $n \geq N \Rightarrow a_n > n - 1 \geq N - 1 \geq M$  となる. 従って,  $\lim_{n \rightarrow \infty} a_n = +\infty$ .

(別解) (i)  $a_n > 100 \Leftrightarrow n^2 - 100n - 100 > 0 \Leftrightarrow n < 50 - 10\sqrt{26}$  または  $50 + 10\sqrt{26} < n$ .  $51^2 = 2601$  より  $10\sqrt{26} < 51$  すなわち  $50 + 10\sqrt{26} < 101$  だから,  $N = 101$  とすればよい.

$$(ii) a_n > M \Leftrightarrow n^2 - Mn - M > 0 \Leftrightarrow n < \frac{M - \sqrt{M^2 + 4M}}{2} \text{ または } \frac{M + \sqrt{M^2 + 4M}}{2} < n$$

だから,  $\frac{M + \sqrt{M^2 + 4M}}{2} < N$  となるように自然数  $N$  をとれば,  $n \geq N$  のとき  $a_n > M$  となる. したがって,  $\lim_{n \rightarrow \infty} a_n = +\infty$ .

演習 1.3 (i) 例えば  $\varepsilon = 2$  とすれば,  $\forall N \in \mathbb{N}$  に対し,  $n = 2N + 1 > N$  をとるとき  $|a - a_n| = |1.2 - (-1)^{2N+1}| = |1.2 - (-1)| = 2.2 > \varepsilon$  となる. ( $\varepsilon$  は 2.2 以下の正の実数ならば何でも良い.)

(ii) 例えば  $\varepsilon = 1$  とすれば,  $\forall N \in \mathbb{N}$  に対し,  $n = 2N > N$  をとるとき  $|a - a_n| = |-0.3 - (-1)^{2N}| = |-0.3 - 1| = 1.3 > \varepsilon$  となる. ( $\varepsilon$  は 1.3 以下の正の実数ならば何でも良い.)

(iii)  $a \geq 0$  のときは、例えば  $\varepsilon = 0.9$  とすれば  $\forall N \in \mathbb{N}$  に対し、 $n = 2N + 1 > N$  をとるとき  $|a - a_n| = |a - (-1)^{2N+1}| = |a - (-1)| = a + 1 \geq 1 > \varepsilon$  となる。 $a < 0$  のときは、例えば  $\varepsilon = 1$  とすれば、 $\forall N \in \mathbb{N}$  に対し、 $n = 2N > N$  をとるとき  $|a - a_n| = |a - (-1)^{2N}| = |a - 1| = -a + 1 > \varepsilon$  となる。従って、 $\{a_n\}$  はいかなる実数  $a$  にも収束せず、発散する。

(iv)  $\{a_n\}$  が  $+\infty$  に発散  $\Leftrightarrow \forall M > 0, \exists N \in \mathbb{N}, \forall n \in \mathbb{N} : n \geq N \Rightarrow a_n > M$  で、これの否定命題を考えると、

$$\{a_n\} \text{ が } +\infty \text{ に発散しない} \Leftrightarrow \exists M > 0, \forall N \in \mathbb{N}, \exists n \in \mathbb{N} : n \geq N \text{ かつ } a_n \leq M$$

となる。まずこの命題を証明すればよい。 $M = 2$  とすれば、 $a_n = \pm 1$  だから、 $a_n \leq M$  は常に成り立つので、 $n \geq N$  となる  $n \in \mathbb{N}$  を適当にとれば条件を満たす。従って  $\{a_n\}$  は  $+\infty$  には発散しない。

上と同様に、「 $\{a_n\}$  が  $-\infty$  に発散する」ことの否定命題を作ると、

$$\{a_n\} \text{ が } -\infty \text{ に発散しない} \Leftrightarrow \exists M > 0, \forall N \in \mathbb{N}, \exists n \in \mathbb{N} : n \geq N \text{ かつ } a_n \geq -M$$

となる。 $M = 2$  とすれば、やはり  $a_n \geq -M$  は常に成り立つので、 $n \geq N$  となる  $n \in \mathbb{N}$  を適当にとれば条件を満たす。従って  $\{a_n\}$  は  $-\infty$  にも発散しない。

注意. (iii) で  $\varepsilon = |1 - |a||$  とすればよい、としている人がいましたが、 $a = \pm 1$  のときには  $\varepsilon = 0$  となってしまっていてうまくいかないで、そこを直す必要があります。(そこだけ直せば、上のものよりすっきりした良い別解となっています。)

演習 1.4  $\sqrt{n+1} - \sqrt{n} = \frac{1}{\sqrt{n+1} + \sqrt{n}} < \frac{1}{2\sqrt{n}}$  に注意すると、 $\forall \varepsilon > 0$  に対し、 $\frac{1}{4\varepsilon^2} < N$  となる自然数  $N$  をとれば、 $n \geq N$  のとき、

$$a_n < \frac{1}{2\sqrt{n}} \leq \frac{1}{2\sqrt{N}} < \varepsilon.$$

よって、 $\lim_{n \rightarrow \infty} a_n = 0$  が証明できた。